

第93回宮崎大学イブニングセミナー

地域資源としての”茶”から広がる学際教育・研究
ー地域資源創成学部への挑戦の歩みー

宮崎県は全国有数の茶の産地でありながら、その存在は必ずしも広く知られてはいません。地域に根ざした“茶”を題材にすることで、私たちは教育や研究を通じて地域と全国、さらには世界をつなぐ新しい学びを展開しています。

日時：2025年11月18日(火)17:30-19:00
場所：宮崎大学錦本町ひなたキャンパス講堂1・2

※会場には駐車場がありません。近隣の駐車場をご利用ください。
(Microsoft Teams ウェビナーで同時配信します)

申込方法：事前登録は不要です。

※Microsoft Teamsで視聴される方は登録が必要となります。

(QRコードをクリックするか、コードを読み取って登録ください。)

※上記でのお申込みが困難な場合には、メールにて「学内・外者の別、学内者の場合は教職員・学生の別、所属、氏名」をお知らせ下さい。

宮崎大学研究推進課総務係

E-Mail : ken-somu@of.miyazaki-u.ac.jp



次第：

《司会》丹生 晃隆（地域資源創成学部・副学部長）

開会挨拶

17:30-17:35 鮫島 浩（学長）

講演

17:35-17:50 「学部の成り立ちと理念」

17:50-18:10 「茶研による教育の取組」

18:10-18:35 「教育を契機とした研究展開」

18:35-18:45 「今後の展望」

18:45-18:55 「まとめ・ディスカッション」

閉会挨拶

18:55-19:00 片岡 寛章（理事・副学長）

1.「学部の成り立ちと理念」

地域資源創成学部は、経済学、経営学、社会学、法学、農学、工学、芸術学などの、互いに背景も研究手法も異なる教員たちが集まって誕生しました。分野が異なれば使う言葉も価値観も違い、最初はなかなか理解し合うことが容易ではありませんでした。しかし、地域の資源を共通のテーマとして捉え直し、何度も対話を重ねる中で、「地域を活かし、新しい価値を創り出す」という理念を共有できるようになってきました。

その中で、学際的な架け橋となったのが「茶」という存在です。茶は、経済・環境・健康・社会・栽培という多様な角度からアプローチできるだけでなく、国際的にも関心の高い資源です。世界中で親しまれ、流通し、健康や文化と結びついている茶は、国内外をつなぐ格好の題材でもあります。まさに「茶」が共通言語となることで、異なる分野の研究者たちが互いの強みを認め合い、新しい教育・研究の形を模索することが可能になりました。

2.「茶研による教育の取組」

茶研究会では、茶という地域資源を題材に、世代に合わせた教育活動を積み重ねてきました。小学生を対象とした取り組みでは、釜炒り茶を使った体験学習を通じて、地域の歴史や文化を学ぶ場をつくりました。女子高校生向けには「茶イエンスカフェ」を開催し、講義と実験、飲み比べを組み合わせ、学問が地域資源と結びつく面白さを体験してもらいました。さらに大学生に対しては、嬉野や静岡などの茶産地や、宮崎の流通センターでの現地視察を実施し、生産から流通までを実際に見て学ぶ機会を設けています。

これらの活動は、茶を通して「学ぶことが地域につながる」という実感を与えるとともに、教育をきっかけにした研究や地域連携へと広がっています。

3.「教育を契機とした研究展開」

茶研究会での教育活動は、次第に研究へと広がり、さらに複数の異分野が連携する形へと発展してきました。茶という一つのテーマを起点にしても、経済や環境、健康、社会、栽培など、さまざまな切り口から研究が可能です。その多様性が教員同士の協力を促し、学際的な研究の芽を生み出しています。

4.「今後の展望」

茶研究会の活動は、教育や研究にとどまらず、今後さらに地域との連携を深めながら広がっていきとしています。新しい授業の構想や、市民を巻き込んだ取り組み、外部資金を活用した研究の発展など、次のステップに向けた準備も進めています。こうした展望は、学部としての新しい教育の形を提示するだけでなく、地域とともに歩む学際的な学びをさらに発展させるきっかけとなります。

今回のイブニングセミナーでは、宮崎大学地域資源創成学部「茶」研究会(通称:茶研)メンバー(西和盛, 戸敷浩介, 福島三穂子, 橋口正嗣, 永野ひかる)がパネラーとして活動を紹介します。茶研代表・西和盛が上記の順に従って進行します。



西 橋口 永野 福島 戸敷
西都市茶臼原の茶園にて